

令和6年度「南城市幼児教育の質向上強化事業」活動記録簿

幼児教育施設保育者等研修会		実施場所	南城市役所 1 階 大会議室
実施日時	令和 6 年 7 月 9 日(火) 13:30～14:45		
事業の名称	令和 6 年度幼児教育施設保育者研修会 対象：3 歳児～5 歳児担任 「2 1 世紀を生きる幼児に望まれる園生活を創る」		
参加者	保育園 2 5 名 こども園 1 0 名 幼稚園 1 名 小規模保育園 1 名 認可外保育園 4 名 行政 2 名 合計 4 3 名		
1 内容 講話「2 1 世紀を生きる幼児に望まれる園生活を創る」 ～遊びに隠れた指針・要領の理念を見つける楽しみ～ 講師：琉球大学教育学部非常勤講師 村吉和美氏 ① 保育の実践事例から指針・要領を捉える ・環境構成とは・・・何を育てるための環境にするか仕掛けをつくる ・おみせやさんごっこ・・・遊びは総合的・社会生活とのつながり ・うさぎの死をめぐって2つの事例・・・保育の質：命の尊さをしるとは 3つの実践事例を基に、指針や要領で示された指導の方向性を重ねながら理解を深め、自園の保育の振り返りや指導計画の改善を通して保育の質の向上に資する。 ○ 保育にはいろいろな方法があるがあるけれど・・・ ・子どもの心に届いているか ・子どもが納得できたか ・保育者の都合にあった保育になっていないか。 指針要領を拠り所する必要があるのは、 子どもの発達に合った専門職としての指導 の方向性が示されているから。 ○ 保育計画は子どもの実態にあわせたオーダーメイド ・一人一人の発達や興味・関心の方向性は、子どもによって違う。 ・毎年同じような子どもの実態はない。(昨年通りの保育計画にはならないのが通常) ・同じ遊びをしても考えていることは違う。コピペで子どもの実態は駆けない。 ○ 遊びの中の学びの姿を見せた時、関係する領域を入口にして、指導の在り方を、指針・要領から捉える。 ・子どもがこの姿を見せた時 ☆遊びにはまる ☆飽きずにやる ☆没頭する ☆明日もまたやりたい 2 成果（感想より） ・遊びの実践事例から指針・要領の領域を確認し、指導の在り方を捉えていくことの大切さが分かった。 ・日々の保育の悩みや指導に困った時、答えは、指針・要領の中にあることが分かった。 ・実際にあったエピソードや保育実践からのお話で心に落ちました。保育に悩んだら保育指針を開くようにしていきたい。 3 課題 ・研修会のみで終わらず、指針・要領を拠り所として活用し日々の保育に活かす。 4 対応策 ・保育支援訪問において話題に挙げる。			



